様式Ｆ－１９

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 3 月 31 日現在

機関番号：25406
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011～2012
課題番号：23653099
研究課題名（和文）　現れつつある「Ω 型経営」の、対話型テキスト分析による析出と財務成果の検討

研究課題名（英文）　The study on relation between "Ω-style management", and financial performance by interactive text analysis.

研究代表者
西脇　廣治（Nishiwaki　Hiroji）
県立広島大学・経営情報学部・教授
研究者番号：30140859

研究成果の概要（和文）：本研究では、新たに現れつつある「従来の日本的経営の一部を保ちつつ、市場原理の貫徹度を強める経営」を「オメガ(Ω)型経営」と名付け、その特徴について資本市場と労働市場の変化についてテキスト分析を行った。その結果、日本の資本市場においては経済原理が強化されつつあり、労働市場においては経済原理が強化されながらも、従来型の従業員関係重視の再評価が見られた。
研究成果の概要（英文）：This research investigate relation between "Ω-style management", and financial performance. We define that "Omega (Ω)-style management" means to strengthen the economic principle while maintains the part of the Japanese-style management. And we reveal the characteristics of that by interactive text analysis. As a result, the Japanese firms have enhanced economic principle in capital market, and also in labor market. But we observed movements that some firms have reevaluated employee-sovereignty.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１１年度	2,300,000	840,000	
２０１２年度	500,000		
交付決定額	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経営学・経営学
キーワード：オメガ（Ω）型経営、日本的経営、テキスト分析、経済性

１．研究開始当初の背景

長期の景気低迷とグローバル化の下、経済各方面で規制緩和が進み、先端的企業は従来の日本的経営を変革し、上場廃止や完全子会社化等、従来日本では稀有な方法を果断に採用し、収益性の向上と経営のスピード化を図っている。そしてその成功モデルが、変容されつつ他の企業に伝播し、日本の経済社会に重大な影響を与えつつある。

本研究では新たに現れつつある「従来の日本的経営の一部を保ちつつ、市場原理の貫徹度を強める経営」を「オメガ(Ω)型経営」と名付ける。その特性は部分的には捉えられているが、全貌はまだ不明である。この新モデルの姿と登場しつつある過程を、探索的に調査する上では、従来の財務分析手法の他、近年飛躍的に進歩してきているテキスト分析を実施する。

２．研究の目的

本研究は、以下の点を究明することを目的とする。

（１）代表的企業のデータを CBTA（コンピュータを用いた内容分析）で分析して、Ω 型経営の構成要素を明らかにし、経営学の理論を用いつつ Ω 型経営の出現を議論するための作業仮説を立てる。

（２）その作業仮説を元に、Ω 型経営がどの

様に、そしてどの程度日本企業に伝播しているのか考察する。
（３）Ω型経営の財務上の有効性の検証を行う。

３．研究の方法

研究は、1）我々が「Ω 型経営」と名付けた新たな日本型経営が 2000 年代以降に表出し、パナソニック、日産など一部の代表的な企業が Ω 型経営に向かっていること、2）Ω 型経営は日本企業全体にも次第に伝播しつつある事、3）Ω 型経営と企業業績との関係を、指摘する。その分析視点として着目する現象が、①非正規雇用・終身雇用の変容、②上場廃止・再上場、③完全子会社化・事業再構築などである。

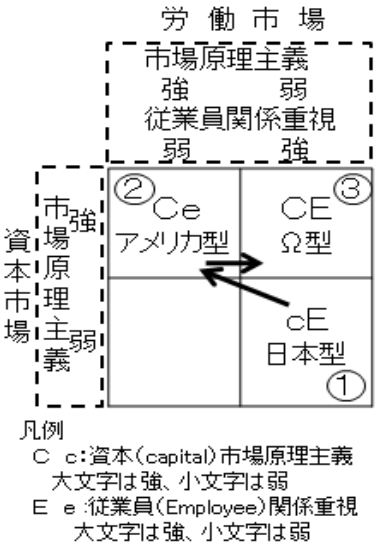
本研究では、仮説探索的に問題設定を行い、データの収集と分析を実施していく。その過程において、断続的に研究計画の見直しを実施する。このようにデータの収集と分析を同時並行的にすすめながら、問題設定を明確にして行く研究手法である漸次構造化アプローチを採択する。そしてその研究方法としてテキスト分析を用いる。テキスト分析は、データ自体は質問票調査のように予め構造化されたものではなく、質的特性を持つ。しかし分析手法としては定量的な多変量解析を実施できる。それゆえ、①あまりはっきりしていない事象の解明を目的とするリサーチクエスチョンを明示化して行く上で、経営学の専門知識を用いて行う仮説検証型のモデル化では漏れ落ちてしまう、想定外の新しい現象の出現を掬い上げて、新たな仮説提示を行う事ができ、しかも、②従来の事例分析法よりも統計的に信頼性の高い方法での分析を可能とする。

４．研究成果

我々は「オメガ（Ω）型経営」の概念を様々な角度から検討してきた。研究のプロセスにおいては、全体を 2 つのチームに分け、それぞれのチームが異なる手法、研究対象を導入した。

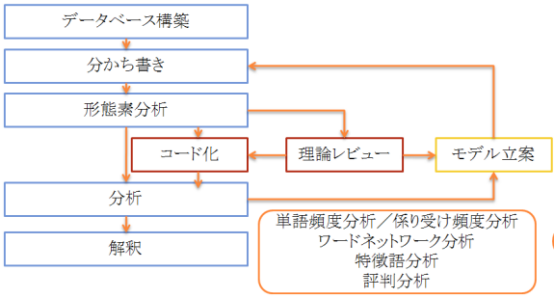
第一、「オメガ（Ω）型経営」の概念を明にするために、1990年以後の日本の労働市場と資本市場の変化について、文献レビューなどにより、以下のような仮説を導いた。

日本の労働市場は、経済原理が弱く市場競争から保護されていたことであるから、これは従業員関係重視が強いことを意味するのでラージ「E」で表記し、スモール「e」はそれが弱いことを示す。ラージ「C」とスモール「c」は資本市場で市場原理がそれぞれ強い・弱いかを表す。このとき従来の日本型経営はセル①で「cE」である。これが、セル②の「Ce」のアメリカ型にかなりの企業が移行したが、その動きに問題が生じ、セル③の「CE」＝Ω型に移りつつあると仮説を立てる。従って「オメガ（Ω）型経営」について明らかにすることは、日本企業の経営スタイルが「cE」から「Ce」に、最後に「CE」へ移行していることを検証することである。



（出典：赤岡（2013）による）

第二、「オメガ（Ω）型経営」の全貌を把握するために、日経BPマーケティング社が発行する「日経ビジネス」の1996年から2010年までの雑誌をテキストデータ化し、以下のような過程でテキスト分析を実施した。

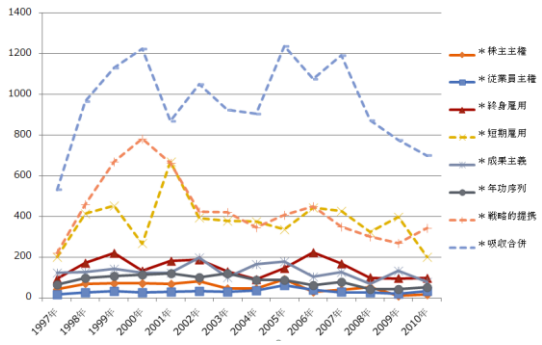


（出典：朴・井村（2012）による）

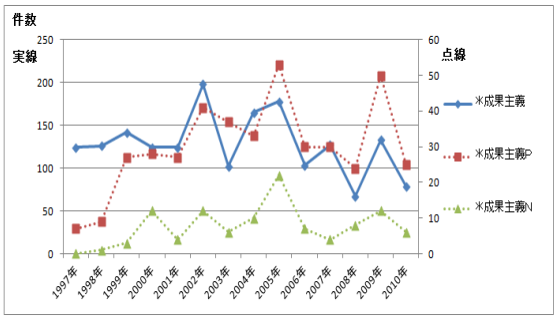
テキスト分析の手順は、従来の日本的経営の特徴である「終身雇用」、「年功序列」、「企業別組合」に関連するキーワードと、経済原理の貫徹度を強める経営の特徴である「短期雇用」、「成果主義」と、「完全子会社化」、「戦略的提携」などに関連する各々のキーワードを構成概念としてコード化し、その出現頻度の変化について分析を行った。

以上の結果から、日本において 2000 年代に入って、資本市場では「c」より「C」に、労働市場では「E」より「e」に関連するコードの出現頻度が多く見られた。つまり、多く

の日本企業で従来の「日本的経営」の「cE」から、アメリカ型の「Ce」の変化していることが観察された。



しかし、労働市場においては、多くの日本企業がアメリカ型の人事評価制度である「成果主義」を導入したが、それらによる問題が多く指摘され、「成果主義」を見直そうとする動きが見られた。つまり、「e」から「E」に調整しようとする動きが見受けられた。例えば、以下に成果主義に関連する記事の推移を分析すると、日本企業は成果主義を導入しつつ（成果主義に関する肯定的記事：成果主義 P）、その副作用による見直し（成果主義に関する否定的記事：成果主義 N）が起きていることが確認できる。このように、日本企業は従来の「日本的経営」から新しい「オメガ(Ω)型経営」を模索していることを確認できた。



５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）
①赤岡功、日本企業の戦略と組織間関係－組織セット戦略、変貌する日本型経営グローバル市場主義の進展と日本企業（上林憲雄編著）、査読無、中央経済社、2013、125-142

〔学会発表〕（計 1 件）
朴唯新・井村直江、現れつつある Ω 型経営:2000 年代の日本的経営における成果主義についてのテキスト分析、日本労務学会関西部会例会、2012 年 3 月 2 日、県立広島大学

〔図書〕（計 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
西脇　廣治（Nishiwaki, Hiroji）
県立広島大学・経営情報学部・教授
研究者番号：30140859

(2)研究分担者
赤岡　功（AKAOKA ISAO）
県立広島大学・-・学長
研究者番号：10025190

平野　実(HIRANO MINORU)
県立広島大学・経営情報学部・教授
研究者番号：00405507

井村　直恵(IMURA NAOE)
京都産業大学・経営学部・准教授
研究者番号：10367948

朴　唯新（PARK YOUSHIN）
宇部工業高等専門学校・准教授
研究者番号：20435457